

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 27 年度第 4 回大学情報システム研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成 27 年 11 月 20 日(金) 17:00 から 19:00 まで
II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 参加者：岩井委員長、小川委員、藤本委員、富士通マーケティング
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

検討項目の順番を「1. 授業の有効性を点検・評価するための学修ポートフォリオ活用の留意点」、「2. 教員自身による授業の振り返り・改善を図るティーチング・ポートフォリオの留意点」、「3. 教育プログラムの効果を学部または学科単位で点検するための仕組み」、「4. 学修ポートフォリオによる学生の負荷軽減のための教学マネジメント対策」、「5. 教職員の意識変革を推進する取り組みの留意点」に見直し、1と4まで整理が進んだことが確認された。

今回は、2のティーチング・ポートフォリオの留意点について検討され、以下のような意見があった。

(1) ティーチング・ポートフォリオ導入の必要性和課題について

- ① ティーチング・ポートフォリオの必要性については、質保証が求められることからステークホルダーに対する説明責任として何をやっているのか見える化する必要がある。教員個人の教育プログラムや大学としての教育プログラムの改善につなげるツールであり、教員の教育評価のためのツールになるのではないかと。
- ② 特徴としては、「自己省察」、「エビデンスによる裏付け」、「柔軟性」、「厳選された情報の集積」。項目としては、「教育の責任・責務」、「教育の理念と目的」、「教育の方法」、「成果と評価」、「今後の教育目標」、「具体的なエビデンス」があげられている。
- ③ 失敗例としては、先生が変わったか否か変化がない現状がみられる。記入の量が多くなると書くこと振り返りに時間がかかり、次の改善に行きつかない状態が想定される。また、インセンティブがないと行わないのではないかとと思われる。
- ④ 教員の負荷の軽減のため、ワークシートを埋めていく方法が良いのではないかと。ワークシートも項目を絞り、振り返りをするところから始めてはどうか。教育改善のサイクルを作ること、できるところから慣れていくこと、振り返りに役立つことの意味を求めてはどうか。
- ⑤ 例えば、授業アンケートとの連動及び授業チェックシートの取組みがあるが、その対応を活用するなどで行わないと別の取組みをしても回顧録など書くような状況になっては受け入れられないと思われる。
- ⑥ 授業改善の努力とアンケート結果へのレスポンスをどのようにするかが重要ではないかと。学修ポートフォリオに関連づけてティーチング・ポートフォリオを進めることでどのように教育改善につなげていくかが必要ではないかと。
- ⑦ 例えば、授業アンケートとして学生の達成度自己評価と授業評価をまとめて授業の最終レポートとして行う。

- ⑧ 授業改善について提出を求めると未提出の教員があり、改善の必要がないとの意見があるが、どのように日々改善をしてきたのかを記述させる形にしてはどうか。
- ⑨ 改善点などを記述する項目については、共通の評価項目、大学独自の項目が考えられるが、数パターンを提示できれば良いのではないか。
- ⑩ 現状は、教員個人の担当授業数が多いことから一部での実施を考えた方が良いのではないか。その場合には共通科目を中心に考えてはどうか。
- ⑪ 現実的な視点で教員に負担をかけずその気になって協力することを考え、学生のアンケートとティーチング・ポートフォリオをICTにより連動するイメージを事例から整理してはどうか。ティーチング・ポートフォリオを新規に構築するのではなく今の資源をどのように活用していくかを考慮してはどうか。

(2) ティーチング・ポートフォリオの結果を点検する仕組みについて

- ① 担当科目が学士力のどの部分で成果があがったかを振り返りができること、学科で共有できれば良いのではないか。評価のための評価ではなく、自主的に改善のための振り返りにしていく必要がある。
- ② 例えば授業アンケートとの連携を考えた場合、専門科目では授業の特性として内容を掘り下げる教育を行っており、すぐに理解できなくても関連科目を学ぶ中で概念理解ができるようになればいいことから、授業アンケートの結果が適切であるとは限らないので、共通科目を中心に授業アンケートとの連携を行ってはどうか。
- ③ 授業を振り返るためのインセンティブが必要ではないか。例えば、学内推薦制度による表彰など教員の教育業績を理事長表彰などにより行う取り組みがある。
- ④ 教育の点検評価の報告をガバナンスに提出する他に教職員間及び学生を含めてどのような形で開示するのが課題である。例えば、学生に見せるなどの利用も考えられる。
- ⑤ 点検評価の目標設定をする場合、目標を低く設定して高く評価するような場合もあることから、評価者によるバラつきを防ぐためにルーブリックなどの評価軸が必要ではないか。ただし、評価内容を教員間で正しく理解できるように抽象的な表現ではなく具体的に表現するなど教員間での意識合わせが必要である。

V. 今後の検討の進め方について

次回の委員会は、1月19日に開催を予定することにした。

今回は、ティーチング・ポートフォリオについて学生アンケートの事例から留意点のイメージを整理することにした。